



ASIAN
ECOTOURISM
NETWORK

海外国立公園における 高付加価値宿泊施設

国際ガイドラインと事例紹介

Asian Ecotourism Network

Founding Chairperson, MASARU TAKAYAMA



高付加価値宿泊施設のスタンダード

施設での学習機会・持続可能性・アクセスビリティ・WOW・ガイドライン（基準）

施設での学習機会

ガイドによる映写会やマナーの説明

前日の徹底した訓練など

- 海外では通常、自然ガイドやナチュラリストが常駐し、セルフガイドツアー、ガイド付ツアーの情報発信、昼夜を問わず見れる野生動物や植物、マナー啓発などを行います。夜の映写会は無料で、生態系や保護の大切さを学ぶ機会に最適です。ツアー料金が宿泊料金に含まれており、参加したいツアーに前日に予約をします。観光収入で自然保護活動と研究をする施設もあります。海外には私有保護区もあり、多くの宿泊施設がエコツアーを実施しています。

高山が現場確認した例；

- Refugio de Caiman (Pantanal, Brazil)
- Lapa Riod Lodge (Osa, Costa Rica)
- Lizard Island (Great Barrier Reef, Australia)
- Sukau Rainforest Lodge (Borneo, Malaysia)
- Kabini (Nagarhole, India)
- El Nido Resorts (Palawan, Philippines)
- Wildtrack Safaris Eco Lodge (Botswana)



持続可能性

国際認証制度への参加、サステナビリティレポートの公開、国際ガイドラインの利用

- 国立公園内ではビジターセンターと同様、持続可能性について国際ガイドライン等に準拠することが求められており、環境保全と観光事業者の意識と活動が一致しています。ただ、環境面だけでなく、文化や宗教、地域への社会経済貢献も大きくかつ分かりやすく理解できる仕組みがあります。

高山が現場確認した例；

- Lapa Riod Lodge (Osa, Costa Rica)
- Finca Rosa Blanca (Heredia, Costa Rica)
- Sukau Rainforest Lodge (Borneo, Malaysia)
- Thala Beach Nature Reserve (Cairns, Australia)
- Zhiwa Ling Hotel (Paro, Bhutan)



アクセシビリティ

事前情報配信の徹底、ベジタリアン対応、障がい者対応、低炭素移動手段の活用

- 国立公園内の移動は、ガイドと運転手付の少人数制が好まれ、多くはその民族や地域住民であり観光の恩恵をいつも感じている心からくる感謝が感じられます。ボートであれワゴン車であれば、6-8人までが主体です。特に野生生物の観察が売りのところは、アイドリングストップはもちろん、オフグリッドであるためソーラーなどで発電して充電した車・ボートを使うことで、不必要な振動や騒音、排気ガスなどから解放されます。対応していないのであれば、それは事前にしっかりと告知をします。

高山が現場確認した例

- Sukau Rainforest Lodge (Borneo, Malaysia)
- Tiger Tops Karnali Lodge (Thakudwara, Nepal)
- Feynan Ecolodge (Jordan)
- Il Gwesi (Lewa, Kenya)
- Ranweli Holiday Village (Sri Lanka)



WOW! Factor

その土地や季節で限定的に味わえる
「いいね！」をアピールした宿の存在は大

アクティビティが目的であり、設備や価格で宿を選びますが、持続可能性はスタンダードであり、あまりアピールはしていません。しかし、HPには報告書が公開されている、または認証制度に取り組んでいることは多いです。さりげなく、がいいです。アクティビティをしっかりと理解している宿にて、数日間共に過ごすガイドや同じ目的で訪れている世界中の訪問客との自慢話に花が咲きます。景色の良いラウンジ&バーは欠かせません。ここでは自然だけでなく、ほんものの文化体験や伝統建築も重要視され、他施設と差別化がされています。

高山が現場確認した例；

- Oulanka Basecamp (Oulanka, Finland)
- Three Camel Lodge (Mongolia)
- Chaa Creek (Belize)

国際ガイドライン

- International Ecolodge Guidelines
- Asian Ecotourism Standard for Accommodations (AESAs)

- 今のサステナブルツーリズムの動きを作り出したバイブル。エコロッジを専門に手掛けるケニアエコツーリズム協会の創設者でもある米国建築学会の受賞者Hitesh Metah氏とコスタリカのエコツーリズムの母、Ana Baez氏との共著。高山はこれにインスピレーション感じて京都でNPO法人日本エコロッジ協会を設立（現在閉鎖）

<https://gileboom.ir/wp-content/uploads/2018/02/International-Ecolodge-Guidelines.pdf>

- 日本で最初に策定した基準をタイで登録しているAENに所有権を移行、英語・日本語を含む9か国語に翻訳して対応（グリーンデスティネーションズやトラベライフ認証機関と同じオランダのオンライン評価システムを利用） <https://asianecotourismstandards.com/>

日本で求められるエコロッジ・エコリゾート

国立公園ならではの立地

- 他の施設が見えない、または離れている。
- 複合施設であっても、環境配慮は怠らない。オフグリッドなら◎
- コテージのような独立棟の場合、スペースたっぷり、日本らしい風水を取り入れたり、施設もサステナビリティツアーが無料でできるほど完成度が高い施設
- 離島はクルーズ船宿泊のエクスカージョン

ガイド常駐の和風エコ施設

- 日本、また地域の建築技術や資材が使われている和風の建造物
- ローカルガイド常駐、映写会
- アクティビティを入れた宿泊料金
- アクセシビリティ・アレルギーなどの対応
- 延泊しても飽きのこない食事バラエティー
- 充実したレンタル用品

ありがとうございました

MASARU TAKAYAMA

takayama@eco-tourism.jp

Oulanka, Finland